

令和元年度 第2回沼田市市民構想会議の概要について

1 日 時 令和元年7月23日（火）午後2時から午後3時35分

2 場 所 沼田市役所 第2委員会室（テラス沼田5階）

3 出席者

（1）委員 金井竹徳委員、小林昭紀委員、生方秀二委員、岡嶋稜子委員、小野里順子委員、長谷川 清委員、角田郁子委員、六本木勇治委員、林 康夫委員、石澤雄一郎委員、小林 好委員、鈴木 誠委員、山田龍之介委員、坂井 隆委員、長沼祐子委員、原口庄二郎委員、小池大介委員 （17名）

（2）アドバイザー 篠田 暢之氏

（3）沼田市 五十嵐副市長、川方総務部長

（事務局：矢代企画課長、武井補佐兼企画係長、小野里主事）

4 配付資料

○次第

○委員名簿

○第1回沼田市市民構想会議の概要について

○（資料5）市民構想会議検討テーマ調査結果一覧

○アドバイザー提供資料

5 概 要

（1）開会（事務局：企画課長）

○委嘱状交付（五十嵐副市長から委員へ委嘱状を交付）

（2）会長あいさつ（生方秀二会長）

（3）前回の会議結果について（事務局：企画課長）

○「第1回沼田市市民構想会議の概要について」により説明した。

（4）議題

1）検討テーマの協議について

事前に提案していただき検討テーマについて、各委員から趣旨及び補足説明をしていただいた後に、協議を行った。（委員からの提案は次のとおり）

<各委員からの提案テーマ>

- 沼田市として、誇れるものを選定し、全国に向けて根気強く発信を続けていく
- 生産年齢人口減少に対応する市財政基盤の構築について
(次世代に重い負担がかからぬように)
 - ・人口減少に伴い市財政が厳しくなる中で、住みやすい沼田市を築いていくためには、将来を見据えたビジョンとしっかりとした財政基盤を構築していく必要がある。(安定した税収入の確保 など)
- 80-50、70-40時代の福祉計画について(少子高齢化対策)
 - ・老老介護を含めて、住みやすい沼田をつくるためには、高齢になっても就労し、自活できる仕組みを考えていく必要がある。
- 中山間地域の生活支援について
 - ・人口減少や高齢化が著しい地域では、買い物や介護サービスに関して、営利を目的とする民間事業者が参入し難いため、公的な生活支援が必要になっている。
- 「テラス沼田」一階全面の活用
 - ・テラス沼田1階の有効活用を期待しているが、半屋外であり外気温の影響が大きく、照明も暗いので、現状では活用方法が限られてしまっている。
- 地域コミュニティの創出
 - ・地域の人たちにできることを増やしていくことが、生きがいつくりにつながる。(地域住民が積極的に関わられる機会を増やす)
 - ・地区公民館を住民が運営する仕組みをつくることで、住民のアイデアや工夫を捉えて地域を活性化していく中で、皆が地域づくりに参加できる機会が増え、地域の良いところも継承していくことができる。
- テラス沼田の一階の広いスペースの利用
- SDGs(持続可能な開発目標)
 - ・少子高齢化により色々なものが持続不可能になってきており、それらを改めて色々な世代の方と考え直して、どうしたら持続可能になるのかを考えることも必要である。
 - ・将来的に消滅が危ぶまれる地域においても、既にSDGsの取り組みが始められており、今回提案されているテーマも持続性を考えるテーマにあたりと感じている。

○農業・観光振興について、社会保障など市独自施策について

- ・これからの社会保障を考えたときに、地域の人たちの健康寿命が重要になっており、様々な分野で高齢者が働ける職場を創出することで、仕事を通じて生きがいや仲間づくりができ、働ける寿命、健康寿命を延伸することが期待できる。
- ・少子高齢化社会においても高齢者が社会保障に頼らず生活できるようになることで、若い人の負担も軽減できるため、そうした市の独自施策を考えることで、住みやすいまちづくりにつながると考えている。

○生き甲斐を持てる街づくり

- ・将来を見据えたときに人口減少が最大の問題であるため、各自治体で人口減少対策を講じているものの、どの地域でも同じような取り組みをしていることから、結果的に自治体間で移住希望者や市場の奪い合いになっており、長期的には先細りして限界を迎えると感じている。
- ・何もしなければ人口が減少していくことは確実なので、人口減少対策は当然必要であるが、何れ限界を迎える分野に注力するよりも、今、沼田市に住んでいる人たちに焦点を当て、その人たちが生き甲斐を持って生活できるまち、ここに住んでいる人たちが幸せだと感じられるまちになれば明るい将来が見えてくると考えている。

○近隣の観光地と協力し合い、歴史に基づく観光開発（利根町と利根郡町村と協力した観光開発、沼田公園や沼田市歴史資料館等の活用、沼田城の再建、働ける場所を作り出す、子育て支援 など）

- ・沼田城を中心とした歴史遺産、老神温泉や吹割の滝などの観光資源が、これからの沼田の大切な地域資源であると考えている。
- ・人口減少社会にあっても、これらの地域資源を活用することにより、観光振興、雇用拡大などが図られ、（経済的に）安定したまちになると良いと考えている。

○地力をつけよう

- ・人口減少が著しい地域においては移動手段の確保が喫緊の課題である。
- ・沼田市として誇れるものや、既に持っているもの、有るものを活用して行く中で沼田の魅力を発信してはどうか。（地酒や水 など）
- ・現場で頑張っている人たちから、体験談などを聞き、その中でアピールできるところはアピールしていく。（グリーンパーク吹割 など）
- ・「山岳」と「語学（ドイツ語）」は未開拓分野なので、今後、出会いを通

してネットワークが築ければ良いと考えている。

○グリーンツーリズムを活用した地域の活性化について

- ・人口減少に強い危機感を持っているが、全体の人口減少率と年齢階層別減少率では様相が大きく異なり、少子化が進む一方で高齢者人口が増加しており、単純に総人口や出生率に目を向けているだけでは、今、何が起きているのかが見えてこない。
- ・働く場所がないため若者が定住しないと考えがちであるが、沼田の有効求人倍率は県下で4～5位と高い水準であり、それにもかかわらず、なぜ仕事がないと感じるのかを調べてみると、季節的・臨時的な仕事が多く、これが有効求人倍率を引き上げていると考えられる。(若者は安定収入が得られる都市部の企業へ就職する傾向にある)
- ・若者が定着しない限りは、子どもは増えず、子どもが増えなければ地域社会の維持・継続性もなくなってしまう。
- ・今、住んでいる人たちが地域に自信と誇りを持てなければ、若者たちは決して定住しない。

○老神温泉の活性化、耕作放棄地の抑制

- ・廃業した宿泊施設が周辺の環境に悪影響を及ぼしているが、法律的な問題もあり、個人や民間では対応が難しい。
- ・温泉街としての連携意識が希薄であり、宿泊施設等の個々の取り組みのため、温泉街としての活性化が為されていないと感じており、自分たちで何か行動しなければ何も変わらないという意識改革が必要であると感じている。
- ・大型機械を使用できない小規模農地、不整形農地の荒廃が著しいため、中山間地域などの条件不利地域でも収益を得られる農業を考える必要がある。

○農業と観光

- ・地域ぐるみで活性化に取り組む観光地では成功例が多い。
- ・沼田市の強みは農業と観光なので、廃業したホテルを再活用してくれる人を外部から募るなど、活性化の手立てが考えられると良い。
- ・市民構想会議のテーマとすると人口を増やすためには何をしたら良いのかということになると思うので、利根沼田にある観光資源と労働資源を活かして地域の活性化を図り、人口を増やすことができれば、未来の明るい沼田が見えてくると考えている。

< 提案テーマに対するアドバイザー意見 >

人口が激減する全国主要自治体 500 の中で、沼田市の減少率は 227 位であり、ほぼ中位・中間の順位にあります。この数字の判断次第では、極めて厳しい状況となる可能性があることが分かります。消滅地域化への階段を転げ落ちていくのか、または人口減少を前提にしつつも、困難な時代をうまく持続できるのか、今後どのような方向に進めることが未来の沼田市にとって必須不可欠なことなのか、中位の順位にある現状は、今後の取り組み判断次第で、その結果が大きく変わる難しい状況にあると思います。

沼田市の人口減少比率は、△36.1%で、2045年には17,564人が減少し、人口は31,112人に大幅減少すると予測されており、このことは市民構想会議の共通認識として共有し、少なくとも20年後の沼田市の基礎的条件として想定しておく必要があると思います。

委員の皆様からの各種の提案である、農業も観光も大切だという認識に、異論はありませんが、人口減少の状況を考えたときにひとつの方向性として、地域の活性化について特化した部分だけを議論していても成功しない時代が既に到来していると指摘している実践的研究者の金丸弘美氏は、数々の実践的な取り組みやその研究を通じて、「里山産業論」を提起しています。

それは、地域の活性化や持続可能性の議論を、もっと現実的な議論に引き寄せて考え、取り組むべきであり、ワクワクする、楽しい、心豊かなゆとりが生まれるような生き方を基礎とすべきであると提案しており、特に、「食べられて、楽しい暮らしができる地域」を目指している地域が、むしろ理想論に走っている地域より、元気を取り戻してきている事例が多いことをあげています。さらには、その活力が地域の魅力を引き上げ、人を集める力を取り戻していること等をあげて、こうした考え方がこれからの地域活性化の原点になると提唱しています。

委員の皆様方の指摘や想いを凝縮し、総合的に沼田の未来について「里山産業論」という視点からとらえ直し、考えられてはどうかと感じました。

< 検討テーマに関する協議での主な意見 >

○利根沼田の特性は豊かな自然と城下町の歴史であり、そうしたものに光をあて、皆で見直していく取り組みが必要であると感じている。

(伝統芸能、真田用水、切支丹 など)

○高齢者が増加したときに、介護や医療など福祉関係の課題が発生してくる

が本地域の特殊性なのか家庭内での介護が比較的問題になっていないように感じている。沼田市は公的な介護施設や病院が少なく、私（個人）経営のサービスに頼っている状況であるが、そうした福祉面でのインフラにあたる問題がこれまで提案されていない。

- 地域課題に取り組むと、ひとつの分野だけで解決するという事は、なかなか難しいと感じていて、農業では後継者不足から農業の継続が困難になり、また、親の老後の面倒を見る人もいないことから、現在は、農業の継続と地域福祉を切り離して考えることができないようになっているため、農業を考え、地域福祉を考え、地域経済を考えなければ出口が見えないと感じている。
- 「薄根地区かるた」のように地域限定のカルタを作ることで、子どもたちに自分たちが住んでいる地域に自信を持ち、喜びを感じられるようになると良い。

<アドバイザー講評>

食料自給率37%の日本で、農業後継者の問題や耕作放棄地が増加している現実には、生命維持の基本が脅かされる時代が迫ってきているという意味でも、当地域には宝がまだまだ埋まっていることが皆さんのお話から知ることができました。

かつて断捨離がブームになりましたが、高度経済成長の中で、“物”を買うことが幸せの指標でしたが、その結果、気付いたときには、“物”に埋もれて生活するようになっていた反省から、そうした生活を見直し、今度は積極的に“物”に振り回されない、心豊かな暮らしを目指そうとする提案がブームとなり、その取り組みが様々な分野でも奨励されました。

それが、現在は断捨離から感捨（離）に変化しています。モノを無造作に捨てるのではなく、感謝しながら捨て、暮らしの簡素化やモノに縛られないゆとりを取り戻そうとする時代になってきました。心地よい暮らしの実現の為に「足し算」でなく、「引き算」をすることから改めて考えてみようという機運が社会的に加速しているのです。

少子高齢化による人口減少時代とは言え、まだ社会的にゆとりがあるうちに、街の未来の姿を議論する際にも、私たちの暮らしの未来に対しても、すっきりする。その過程で、大切に残すべきものは残すという方向性を確認して、余裕をもって取り組んでいくことが肝要かと思います。「減る」と危機感

も大切ですが、「減らす」という意思が生み出す前向きな姿勢が新たな暮らしの転換を加速させ、先回りの議論の基本的な方向付けに役立つように思います。そのことによって、この会議の意義が更に高まるように思います。

2) その他

次回、次々回の会議日程について、事務局から次のとおり調整したい旨を説明し、確認いただいた。

<第3回>	日 時	8月20日(火)
	場 所	沼田市役所第2委員会室(5階)
<第4回>	日 時	10月3日(木)
	場 所	未定

(5) 閉会(事務局:企画課長)